

がんサバイバーの"食べたい"たいを叶えるメニュー

別府大学短期大学部食物栄養科



【地域が抱える課題と背景】

- 1. がんは我が国の死亡原因の1位である。
- 2. 大分県のがん死亡率は全国平均を上回っており、<mark>県民の生命</mark>、 健康にとってがん対策は重要な課題である。
- 3. がんの通院治療中は栄養や食事管理が患者(サバイバー)や 家族、支援者の負担になり生活の質に影響を及ぼす場合がある。
- 4. 短期大学部の栄養士養成コースで学ぶ学生は、がんについて学ぶ カリキュラムや時間数が限られており、がんの病態や食事療法に ついて学ぶ機会が少ない。

【こころ サポート プロジェクトの活動について】

がん診療の拠点病院である別府医療センターとNPO法人がんサポート グループ「クーナフエゴ」は別府市・日出町で「がんサロン」を開催している。 令和4年度から3者の協働により食事支援の活動を始めた。







- ② 食べやすいこと③ おいしいこと
- ④ 調理に手間がかからないこと
- ② 甘酒を利用する ③ 素材の味を生かす →味覚の変化への配慮
 - 玄米スープ ② かぼちゃのポタージュスープ 小松菜とリンゴのスムージ (3) 小松菜のシフォンケーキ
 - おさつきなこ 他 栄養剤を活用したゼリー

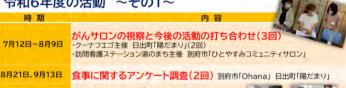
※学生のイラストを添えたレシピを作成











9月24日~10月4日 メニューの考案と試作 10月 7日~10月8日 試食会の準備(調理)

10月 9日

10月20日

11月17日

食事についての提案と試食会(第1回) 別府市「Ohana」

食事についての提案と試食会(第2回)「ひとやすみコミュニティサロン」

「についての提案と試食会(第3回)「ひとやすみコミュニティサロン」 栄養士として活動している卒業生2名の参加あり

【訪問看護ステーション湯のまち主催】 〇別府市 「ひとやすみコミュニティサロン

フーナフェゴ主催】 〇別府市「Ohar 〇日出町「陽だまり」

令和6年度の活動 ~その2~



クリスマスのお菓子とミニチュアリースを サロンへ届ける(3か所)





【活動を通しての考察】

- 病状や個々人の背景もあり、食への思いを叶えることの難しさを 実感した。
- 2. 栄養や食を専門とする者のがんサロンへの参加には意義を感じた。
- 3. 今後も病態を含めて食事や栄養に関する学びを深めていきたい。

【食事療法研究会のメンバー】

【別府医療センター】井上祥明 玉野緋呂子 【クーナフエゴ】武石好春 高橋恵 【別府大学短期大学部 食物栄養科】 白根志緒梨 畑野美智子 平田真唯 藤田千尋 鹿島胡海 平田明音 安本愛梨 岡太昭 藤岡竜太 浜野香奈

